



Vol.26

榊陶和の渡辺です。「ありがとう通信」を読んでいただきありがとうございます。

今回は「私の履歴書②」(榊村田製作所の時代について、)を書かせて頂きます。

配属先は生産1課、現場作業員として仕事を始める。今も仲間の顔をはっきりと覚えている。私は16歳で男性では一番年下の若造でした。女性では一つ下の子も働いていた。直径1.5メートルのステンレス製スチームドラムにセラミックを薄く貼り付けて、乾かし、「木のへらを組み合わせる」、セラミックを剥がす作業。スチームドラム管からセラミックが剥がれず、苦勞した。生産効率を上げるために、乾燥温度を研究したり、木のへらの改善・スチームドラムの回転数・セラミックの濃度の改善等、あらゆる条件をノートに書き出した。ひとつの条件で改善作業をする時は、他部品は一定にし触らない。数十もの条件の実験をしては失敗の連続でした。ドラムの図面を描き、丸山鉄工所の社長を呼び(今、丸山鉄工所の社長の顔が浮かんできた。)、機械の元の形が無いくらい変更を加えて、生産効率を大幅に上げた。一日の生産量をグラフにして、気温と生産量、気温と濃度と生産量などを毎日つけて、いろいろな条件を探し出し、グラフにして、下手な文書で纏めて、毎週一回課長に報告義務を自分で負わせて報告をしていた。課長はそのレポートに赤線で色々書いて教えてくれた。後で聞いた話だが、レポートは人事部まで回っていたとのこと。山田常務も下手なレポートを読んでいたとのこと。後に技術部に配属された時、「文書は幼稚園生より下手だ」と聞かされた。分かりやすい情報でレポートを書ける人は羨ましい限り。そのために、日本語の勉強と本を沢山読むことですね。

73歳では遅すぎますが、「ありがとう通信」を読んで頂き感謝します。

文書が上手い人は一生得ですね。次に生まれてきた時は文書と文字が綺麗でありますように。母にお願いをしておかなくては(笑)。昼は母の手作り弁当を一人、裏の竹やぶの中で楽しんだ。(ちょっと、昼寝、少し勉強)1月、2月は寒く、竹やぶでカラスが死んでいて、気持ち悪かったが、見るとかわいそうだったので竹やぶの土の中へ返してあげたのを覚えている。4月から5月にかけて、竹やぶの土がぽこっと割れて、竹の赤ちゃんが芽を出す。鉄の棒でゆっくり大きく丸く掘り下げて、竹の子を採り、家に持ち帰った。京都の竹の子は太く大きく、アクがなく食べられる。竹の子は背中が曲がっているの、背中を先に深く掘り、お腹の曲がっている方を奥深く鉄の棒を入れてグイッと土を上げると竹の子は根っこから採れる。急ぐとど真ん中が割れた状態で採れてしまう。エジソンが発明した電気は、長岡京の竹と聞いた。次回も履歴書③を読んでください。

とうわ
株式会社陶和
代表取締役
渡辺正道



〒183-0011 東京都府中市白糸台3-37-4
T:042-369-3131 F:042-369-3184 Email:w@kktowa.co.jp